

## 飛騨地区

### 181 高山陣屋

(高山市八軒町1-5、TEL 0577-32-0643)

高山陣屋は、飛騨国が江戸幕府直轄領になってから支配拠点となった代官所(のち郡代役所)である。敷地内には、御役所や郡代(代官)役宅、御蔵などがある。江戸時代全国に60数か所あった陣屋のうち、主要建物が唯一現存し、国史跡に指定されている。

入館料：大人440円

休館日：年末年始(12/29～1/1)



### 182 高山市政記念館

(高山市神明町4-15、TEL 0577-32-0406)

高山市の行政資料を保存および展示する資料館で、三町伝統的建造物群保存地区内の南端に位置している。当初は高山町役場として建てられ、昭和11(1936)年から同43年までは、高山市役所として使用された。その後は公民館として利用されていたが、昭和61年に市政記念館として新たに開館し、市政の移り変わりをパネルや資料などで紹介している。建物は明治28(1895)年に建てられた和洋折衷の総檜造り2階建てで、最高の材料を使用しており、ガラス窓も高山では当時初めて導入され、硝子障子という名称で各所に使われている。

入館料：無料

休館日：無休



### 183 飛騨高山まちの博物館

(高山市上一之町75、TEL 0577-32-1205)

高山城主金森氏、高山祭、美術、伝統工芸、円空仏、生活用具など、飛騨の歴史と文化に関する資料を常設展示している。博物館の建物は、江戸時代の豪商、矢嶋家と永田家の土蔵を活用しており、平成23(2011)年に永田家の土蔵があった「高山市郷土館」と、隣接する矢嶋家の土蔵を含めて整備が行われ、「飛騨高山まちの博物館」と名を変えて開館した。酒造りをしていた永田家の土蔵は、明治8(1875)年に建てられたもので、高山で最も大きな蔵の一つである。博物館の向かいには「飛騨高山まちの体験交流館」があり、飛騨地方の伝統工芸の実演見学や体験ができる。

入館料：無料

休館日：無休(臨時休館有)



### 184 飛騨高山レトロミュージアム

(高山市神明町4-7、TEL 0577-70-8384)

昭和20～50年代にタイムスリップしたかのような町並みを歩きながら当時のフィギュア、おもちゃ、ポスター、雑誌、レトロゲームなどで遊び、小学校ブースでは当時の学校給食を体験できる施設である。

入館料：大人700円、小人500円

休館日：年中無休



### 185 高山昭和館

(高山市下一之町6、TEL 0577-33-7836)

館内には小学校教室・床屋・雑貨屋・玩具屋・食堂などのレトロな町並みが忠実に再現されており、また数々の貴重な展示品や資料などがあり、昭和30年代の生活や文化を懐かしく体験できる施設である。

入館料：大人800円、中高生500円、  
4歳～小学生300円

休館日：年中無休



### 186 古い町並み美術館・山下清原画展

(高山市下三之町1-19、TEL 0577-36-3124)

放浪の天才画家山下清の作品や記録写真など120点が展示されている。貼り絵、マジック画、陶器、油絵など山下清の繊細で素朴な心に接することができる。

入館料：大人700円、中高生400円、  
4歳～小学生250円

休館日：年中無休



### 187 日下部民藝館

(高山市大新町1-52、TEL 0577-32-0072)

江戸時代に幕府御用商人として栄えた日下部家邸宅を民芸館として一般公開している。明治8(1875)年の大火で焼失した邸宅は、明治12年に江戸時代の建築様式をそのままに再現され、昭和41年に国の重要文化財に指定された。蔵の展示室には、根付、古伊万里、葎草焼等多数展示されているが、一番の見どころは300両をかけて作られたきらびやかな仏壇である。

入館料：大人500円、小中学生300円

休館日：火曜日(通年)



### 188 吉島家住宅

(高山市大新町1-51、TEL 0577-32-0038)

江戸後期から生糸繭の売買などで栄えた吉島家は、明治38(1905)年の火災で消失後、同40年に再建された。造り酒屋の面影を伝える華麗な建物で、漆が施された柱や梁、立体的な格子など、すみずみまで神経の行き届いた繊細で美しい造りが見どころであり、国の重要文化財に指定されている。隣の日下部家住宅と並んで、日本を代表する明治の和風住宅建築である。

入館料：大人500円 小人300円

休館日：12月～2月火曜日、年末年始





## 189 高山祭屋台会館・桜山日光館

(高山市桜町178、TEL 0577-32-5100)

桜山八幡宮の境内にあり、秋の高山祭に曳出される11台の実物の屋台(国重文)を年3回入れ替えて展示している。附設の「桜山日光館」には飛騨高山の出生とされる名工左甚五郎と縁のある日光東照宮の超精巧模型が展示されている。

入館料：大人1000円、高校生600円、小人500円

休館日：無休



## 190 飛騨高山獅子会館・からくりミュージアム

(高山市桜町53-1、TEL 0577-32-0881)

獅子会館には、全国各地から集められた約300点の獅子頭をはじめ、まつり用具、山村の生活用具、美術工芸品を展示している。また、併設された「からくりミュージアム」では、からくり師による5種類の屋台からくりを上演している。

入館料：大人600円、小人400円

休館日：冬季休館



## 191 福来記念・山本資料館

(高山市国府町八日町702、TEL 0577-72-2486)

「念写」を発見した福来(ふくらい)友吉と、その念写を説明する六次元論を発見した山本健造の研究に関する資料を展示している。福来友吉は明治43(1910)年、心が写真の乾板に感光現象を起こす、エネルギーを伴っているという驚天動地の発見をした。人類は、心は表象と思っていたところ、心のエネルギーは空間・時間をも超越する、その念写写真を展示している。その念写を哲学的に証明したのが山本健吉の六次元論である。

入館料：大人500円、小中学生250円

休館日：年末年始(12/29~1/3)



## 192 高山市風土記の丘学習センター

(高山市赤保木町400-2、TEL 0577-36-5800)

高山市風土記の丘史跡公園内には、縄文から古墳時代の住居などを復元した古代集落の里、春慶塗の祖とされる成田正利の墓、少し離れたところに古墳広場などがある。また、周囲には国分寺の瓦を焼いた窯跡や、熊野神社の本殿、大スギなど多数の指定文化財もあり、歩いて廻ることができる。敷地内にある学習センターでは市内の遺跡から出土した遺物などを保管、展示している。見晴らしがよく、晴れた日には乗鞍岳や笠ヶ岳などを一望することができる。

入館料：無料

休館日：月・火曜日、祝日、年末年始(12/28~1/4)



## 193 光ミュージアム

(高山市中山町175、TEL 0577-34-6511)

建築と空間の美が魅力。

美術館と博物館の要素を併せ持つ複合型ミュージアムで、日本画や書・浮世絵などの美術のほかに、飛騨地域を中心とした自然史、インカ・マヤなど世界の歴史の展示もある。また、ゴッホやコロドーなどの西洋絵画を常設しており、幅広い展示内容は家族で楽しむことができる。

入館料：大人900円、高大学生・70歳以上700円、  
小中学生300円

休館日：水曜日（祝日の場合開館）、冬期間



## 194 飛騨民俗村・飛騨の里

(高山市上岡本町1-590、TEL 0577-34-4711)

飛騨高山の集落博物館「飛騨の里」には、合掌造りや樽葺き屋根の民家など、飛騨の代表的な建物30数棟が建ち並び、その多くが国や県の重要文化財に指定されている。敷地内に展示される農山村の生産・生活用具とともに、飛騨人の心に今も残る暮らしの文化が再現されている。

入館料：大人700円 小中学生200円

休館日：無休



## 195 飛騨高山テディベアエコビレッジ

(高山市西之一色町3-829-4、TEL 0577-37-2525)

環境をテーマにしたミュージアムで、築180年の合掌造りの古民家の館内に歴史的に貴重なベアや人気アーティストの作品など約1000体のベアが展示してある。

入館料：大人600円 高校生500円 小中学生400円

休館日：不定休



## 196 飛騨高山まつりの森

(高山市千島町1111、TEL 0577-37-1000)

高山祭の魅力は、動く陽明門と称えられる絢爛豪華な動く祭り屋台にある。祭り屋台の製作は、江戸中期と伝えられ、明治以降は改造・修繕のみが行われてきた。伝統の技を後世に残すにはどうしたら良いか「昔作られたものを守ることも大切だが、伝統の技を現代に生かしてこそ、後世に伝えることができる」という想いから、飛騨の伝統を受け継ぐ地元の匠をはじめ、日本の名工の協力を得て、新しい平成の祭り屋台を完成させた。

入館料：大人1000円 小人600円

休館日：無休





### 197 飛騨高山茶の湯の森美術館

(高山市千島町1070、TEL 0577-37-1070)

現代の工芸界を彩る人間国宝および著名作家の手による陶芸や工芸の作品をはじめ、屏風、玉虫の羽を用いた漆器作品などを所蔵し、伝統のわざと美の世界を紹介している。併設の茶室では、著名作家の茶碗でお茶を楽しむこともできる。

入館料：大人800円 小人500円

休館日：水曜日（祝日は営業）、冬季休館



### 198 ミュージアム飛騨

(高山市千島町900-1、TEL 0577-37-6111)

飛鳥時代から数百年にわたり都へ出役し、宮殿や仏閣の造営に腕を揮った「飛騨の匠」の技は、連綿と受け継がれ建築や祭り屋台にその伝統を見ることが出来る。現代に続く「飛騨の匠」の歴史や匠の技が現代に継承されて誕生した「飛騨家具」の歴史を紹介している。

入館料：大人500円 小人200円

休館日：火曜日（祝日の場合はその翌平日）  
年末年始



### 199 飛騨荘川の里

(高山市荘川町新淵字三之松、TEL 05769-2-2681)

古くから荘川に伝承されてきた寄棟式入母屋合掌造りの古民家5棟が移築保存され、当時の生活様式を今に伝えている。その一つ旧三島家は、宝暦13(1763)年建築で当初は寄棟式合掌造だったが、明治初期に切妻板葺きに改築された。県内で最も早く四間取り形式を取り入れ、飛騨の民家の基本となっている。旧渡辺家は寄棟式入母屋合掌造で、江戸末期の建築と推定される。館内では明治初期に使われた農林器具、生活用具、養蚕用具などを展示している。

入館料：大人410円 小人200円

休館日：水曜日、冬季休館（11/24～4/19）



### 200 飛騨位山文化交流館

(高山市一之宮町3095、TEL 0577-53-0035)

展示室や図書館、研修室を兼ね揃えた複合施設で、常設展示コーナーでは、地域の歴史資料などを展示している。また企画展示室では、臥龍桜日本画大賞展をはじめとする、各種絵画等の展覧会などが開催されている。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



## 201 久々野歴史民俗資料館

(高山市久々野町久々野2262-1、TEL 0577-52-3459)

国史跡の堂之上（どうのそら）遺跡に隣接する久々野歴史民俗資料館は、堂之上遺跡（縄文時代前期から中期）の調査記録、出土品を収蔵するとともに、町内の考古資料、歴史資料、民俗資料を収集、展示している。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

冬季休館（12/1～3/31）



## 202 千光寺円空仏寺宝館

(高山市丹生川町下保、TEL 0577-78-1021)

千光寺は、約1,200年前に弘法大師の10大弟子の一人真如親王によって建立されたと伝わる。永禄7(1564)年の武田軍の飛騨攻めの時焼け落ち、後に高山城主金森公が再建したのが現在の堂宇であり、高野山真言宗の修禅観法の道場として山岳仏教の古風を伝えている。

円空仏寺宝館は、円空仏が約60点展示されており、とくに両面宿儺像や護法神などが有名である。

入館料：大人(高校生以上)500円、小中学生200円、

休館日：平日要予約、冬季休館(12/1～3/31)

本堂は、入館料300円、年中無休



## 203 民芸ミュージアム匠の館・森の水族館

(高山市丹生川町根方532、TEL 0577-79-2505)

匠の館は、明治15年に飛騨の匠の技を受け継ぐ名工により設計建造された。豪快な梁組は大指木、差鴨居、大黒柱で構成され、特に一番太い大指木は直径90センチメートル、長さ8メートルと飛騨でも最大級のスケールである。森の水族館は、自然豊かな溪流を再現した水槽で、飛騨でも見られなくなった巨大イワナや絶滅の危機に瀕するカジカ、北海道北部のみに生息する1メートル近い巨大イトウなど3,000匹以上の珍しい淡水魚を見ることができ

る。

入館料：大人600円、小人(3才～小学生)400円

休館日：原則無休



## 204 大橋コレクション館

(高山市丹生川町日面1147、TEL 0577-79-2211)

飛騨大鍾乳洞の発見者「大橋外吉」氏が収集した、美術品、装飾品、銘石、姿石、奇石、化石など約1000点を展示している博物館であり、飛騨大鍾乳洞に併設する形で、昭和62(1987)年に開館した。

入館料：大人1100円、小人550円

休館日：無休





## 205 上宝ふるさと歴史館

(高山市上宝町本郷582-12、Tel 0578-86-2141)

円空仏や大原騒動と本郷村善九郎についての資料、上宝町・奥飛騨温泉郷ゆかりの偉人や昔の人々の暮らしを紹介している。映像学習室では、本郷村善九郎の映画「苔みし花」の上映を行っている。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



## 206 平湯民俗館

(高山市奥飛騨温泉郷平湯29、TEL 0578-89-3339)

平湯温泉郷にある民俗資料館である。江戸時代中期に建てられた木造茅葺き、入母屋風の古民家「豊坂家住宅」を改造して、1階にはいろいろの部屋や麻や布の衣服などを、2階には民具や農具などを展示している。

そのほか敷地内には円空作の仏像群を安置する「薬師堂仏殿」、合掌造の古民家「高桑家住宅」、「篠原無然記念館」と、温泉入浴施設「平湯の湯」がある。

入館料：無料

休館日：木曜日



## 207 福地化石館・昔ばなしの里

(高山市奥飛騨温泉郷福地110、TEL 0578-89-2793)

福地温泉「昔ばなしの里」内に平成16(2004)年に開館した。日本最古の化石をはじめ、地元から産出した多くの貴重な化石を展示している。中には岐阜県文化財になっている化石もあり、奥飛騨の大自然の成り立ちをこの「福地化石館」で観ることができる。

囲炉裏のある古民家「昔ばなしの里」では、昔ながらの山里風景を再現している。

入館料：無料

休館日：不定休



## 208 奥飛騨さぼう塾（神通砂防資料館）

(高山市奥飛騨温泉郷中尾2-34、TEL 0578-89-2133)

昭和59(1984)年に開館した「神通砂防資料館」は、土砂災害と砂防の歴史を人々に伝えてきた。「奥飛騨さぼう塾」は、その資料館としての役割に加え、情報誌の発行や子ども達の学習施設として、また地域情報の発信基地としての新たな役割を果たすことを目的としている。

入館料：無料

休館日：不定休



## 209 下呂温泉合掌村

(下呂市森2369、TEL 0576-25-2239)

村内は「合掌の里」と「歳時記の森」の2つのゾーンで構成され、飛騨の生活文化や豊かな自然を体験できる施設である。「合掌の里」は、白川郷などから移築した国重文「旧大戸家住宅」などの合掌造りの民家で集落を再現し、民俗資料館には農具や民具を展示するなど合掌集落の生活を身近に体験できるようになっている。「歳時記の森」では、桜とモミジの里山で、山野草をはじめ、様々な植栽から日本の四季を感じることができる。

入館料：大人（高校生以上）800円 小人400円

休館日：年中無休（一部施設臨時休業あり）



## 210 下呂発温泉博物館

(下呂市湯之島543-2、TEL 0576-25-3400)

温泉を科学と文化の両面から紹介する全国でもめずらしい温泉専門の博物館である。科学的な面から、温泉の湧き出すしくみや、泉質、効能などを、また、歴史から見た温泉や温泉の発見伝説、江戸中期以降の温泉番付などの資料をそろえて、温泉の文化を紹介している。そのほか、温泉に関する書籍をそろえ、下呂温泉に関してもその歴史や現状を、写真、資料、ジオラマなどで紹介している。

入館料：大人400円 小人200円

休館日：木曜日（祝日の場合は翌日）



## 211 下呂ふるさと歴史記念館

(下呂市森1808-37、TEL 0576-25-4174)

下呂ふるさと歴史記念館は、当初、峰一合遺跡の調査成果を公開する施設として昭和47（1972）年に「中部山岳考古館」という名称で開館した。昭和60年「峰一合遺跡考古館」に、平成7（1995）年に「下呂ふるさと歴史記念館」に館名を改称した。平成24年のリニューアルオープンに伴い、下呂市全体の考古・歴史資料を展示する「総合型博物館」に生まれ変わった。

入館料：無料

休館日：月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始  
その他年4回ほど臨時休館あり



## 212 加藤素毛記念館「霊芝庵」

(下呂市金山町下原町69-5、問合せ先

下呂市金山振興事務所 TEL 0576-32-2201)

万延元（1860）年、日米修好通商条約批准のため遣米使節団員77人の内の一人だった「加藤素毛」の資料を展示している。文政8（1825）年に飛騨国下原の苗字帯刀を許された名主の次男として生まれた。23歳の時に高山で飛騨郡代公用人を務めたのち、江戸へ出て外国方御用達伊勢屋平作の手代となった。その関係で江戸幕府の遣米使節団に加わり、飛騨では初めて世界一周をなした人となった。国学や漢学などを学び俳人でもあった。

入館料：無料

休館日：3月～11月の毎月1日・15日のみ開館





## 213 下呂市金山郷土館

(下呂市金山町大船渡600-8、問合せ先

下呂市金山振興事務所 TEL 0576-32-2201)

昭和42(1967)年、旧金山町役場を改修して開館し、平成18(2006)年の下呂市合併とともに金山振興事務所内に移転した。金山地域にゆかりのある明治から昭和にかけての民具・農機具とともに、縄文時代から現代に至るまでの歴史資料など約2500点を収集し展示している。

入館料：無料

休館日：日曜日、土曜日、祝日、年末年始



## 214 飛騨古川まつり会館

(飛騨市古川町壺之町14-5、TEL 0577-73-3511)

400年余の伝統をもつ気多若宮神社の例祭古川祭は、「動と静」を表す祭りといわれ、平成28(2016)年にユネスコ無形文化遺産に登録された。「動」は、裸と裸の男がぶつかり合う勇壮な裸祭り「起し太鼓」である。「静」は、飛騨の匠の技術の粋を集めた絢爛豪華な9台の「屋台」の曳き廻しで、からくり人形や子供歌舞伎が演じられている。この会館では、ハイビジョン4K映像・祭り屋台の実物展示・からくり人形の実演等により、毎年4月19・20日にしか体験できない古川祭をいつでも味わうことができる。

入館料：大人700円 小人300円

休館日：年末年始



## 215 飛騨の匠文化館

(飛騨市古川町壺之町10-1、TEL 0577-73-3321)

奈良時代以降、「飛騨の匠」たちは都に派遣され、藤原京や平城京、平安京の建築にも携わったと伝えられ、万葉集や日本書紀、今昔物語、源氏物語などにも、飛騨の匠たちの真面目で一途な仕事ぶりや高い技術への賞賛が描かれている。「飛騨の匠文化館」では、そんな彼らが作った町並みや民家・商家の紹介をはじめ、大工道具の展示、継ぎ手や木組の見本などを展示している。

入館料：大人300円 小中学生100円

休館日：木曜日、年末年始(12/28~1/2)



## 216 ガラス美術館 「駒」

(飛騨市古川町三之町 1-17、TEL0577-73-6550)

白壁土蔵造りの大正ロマンを感じさせるモダンな建物の中に、幕末から昭和初期にかけてのガラス製品約800点が展示されている。「豆ランプ」「かき氷の器」「ウランガラス」「ガラス時計」などの道具類はどこか懐かしさを感じさせてくれる。

入館料：大人 300 円 小人 150 円

休館日：不定休(12月~2月は土・日曜のみ開館)、  
年末年始



## 217 飛騨市美術館

(飛騨市古川町若宮2-1-58、TEL 0577-73-3288)  
地域の文化と伝統を伝えるため、飛騨市にゆかりのある作家の作品、及び郷土の美術品を中心に展示している。

入館料：大人200円

休館日：月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始  
展示替期間



## 218 日根野美術館

(飛騨市古川町壺之町3-10、TEL 0577-73-6257)  
飛騨古川の町屋を活用した小さな美術館で、建物は飛騨の匠の技が光る伝統的な書院造りである。横山大観、川合玉堂などの日本画、古伊万里や染付け九谷焼などの陶磁器、蒔絵など数々のコレクションを、落ち着いた空間で楽しむことができる。

入館料：750円（飲み物付き）

休館日：木曜日



## 219 飛騨みやがわ考古民俗館

(飛騨市宮川町塩屋104、

問合せ先 飛騨市教育委員会、TEL 0577-73-7496)

飛騨市宮川町内で発掘された県指定文化財の考古資料と宮川町周辺から収集された積雪期用具など国指定有形民俗文化財を収蔵展示している。近年まで使われていた民具や縄文時代の遺物など、ここでは、山里に生きた人々の暮らしぶりを感じることができる。

入館料：大人310円 小人150円

休館日：冬季休館（11/1～4/30）

館の定める日（HPで確認が必要）



## 220 史跡 江馬氏館跡公園

(飛騨市神岡町殿573-1、TEL 0578-82-6001)

吉城郡高原郷を本拠地とした中世豪族、江馬氏の館跡で、現在は、庭園、会所、主門、土堀などが復元され、史跡公園として整備されている。戦国時代、飛騨国は、周囲を甲斐の武田信玄、越後の上杉謙信、美濃の織田信長といった列強に囲まれ、存続を図っていたが、天正10（1582）年に、当時の当主江馬輝盛が南飛騨から進出した姉小路頼綱により滅ぼされた。高原諏訪城、下館跡、土城跡、寺林城跡、政元城跡、洞城跡、石神城跡が、江馬氏の城館跡として国の史跡に指定されている。会所からは、飛騨の雄大な山々を借景に、国指定名勝の美しい庭園が一望できる。

入館料：大人200円 小人100円

休館日：冬季休館（12/1～3/31）





## 221 高原郷土館

(飛騨市神岡町城ヶ丘1-1、TEL 0578-82-0253)

「高原郷土館」は、神岡鉱業創業100年を記念して建てられた「神岡城」をはじめ、明治時代の民家を移築した「旧松葉家」、神岡鉱山を紹介している「鉱山資料館」の3施設からなり、中世から現代に至るまでの高原郷の流れを学ぶことができる。

入館料：大人470円、小人260円  
休館日：冬季休館（12/1～3/31）



## 222 ひだ宇宙科学館カミオカラボ

(飛騨市神岡町夕陽ヶ丘6、TEL 0578-86-9222)

「スーパーカミオカンデ」（東京大学宇宙線研究所観測施設）の観測データをリアルタイムで見ることができ、ニュートリノ、重力波などの宇宙を形作る重要な要素について、わかりやすく解説している。

入館料：無料  
休館日：水曜日



## 223 野外博物館合掌造り民家園

(大野郡白川村荻町2499、TEL 05769-6-1231)

白川村が、昭和42(1967)年の加須良（かずら）地区住民の集団離村を機に、合掌造りの建物や文化を保存するため数年かけて村内各地の合掌家屋を移転し、昭和46年に開業した施設である。開業当初の名称は「白川郷合掌村」で、その後も整備を継続し、名称も変更しつつ、合掌造り家屋25棟に「ふるさと体験館」を加えた「合掌造り民家園」として今に至っている。

入館料：大人600円 小人400円  
休館日：12月～3月の木曜日（祝祭日の場合は前日）



## 224 明善寺庫裡郷土館

(大野郡白川村大字荻町679、TEL 05769-6-1009)

明善寺は白川郷の荻町合掌造り集落にある5階建ての真宗寺院で、本堂、庫裏、鐘楼が、集落の民家同様、茅葺き屋根の合掌造りで建てられ、寺院でありながら屋根裏部屋では養蚕が行われていた。庫裡は約200年前に建てられ、釘やカスガイを一切使わずに建造され、県の重要文化財に指定されている。庫裡内には当時の生活模様がうかがえる農具や生活用具などが展示され「明善寺庫裡郷土館」として公開されている。

入館料：大人300円 小人100円  
休館日：不定休（毎年4月1・2日は法要のため休み）





## 225 和田家

(大野郡白川村荻町997、TEL 05769-6-1058)

和田家は、白川郷で最大規模を誇る合掌造り民家で、往時には20人以上が住んでいたという。江戸時代には牛首口留番所役人や庄屋を務め、苗字帯刀を許された。また火薬の原料である塩硝（焰硝）の取引で繁栄した。和田家住宅は平成7（1995）年に主屋、土蔵、便所の3棟ならびに土地が国の重要文化財に指定された。現在も住居として活用しつつ、1階と2階部分を公開している。

入館料：大人300円 小人150円

休館日：不定休



## 226 長瀬家

(大野郡白川村荻町823-2、TEL 05769-6-1047)

長瀬家は270年つづく旧家であり、三代目までは漢方医で、江戸期の薬箱等が残されている。建物は5階建ての合掌造りで、1階には500年前の作と云われている荘厳な仏壇のほか、美術品・什器等を、3・4階には昔からの生活用具を展示している。平成13(2001)年には80年ぶりに行われた茅葺き屋根葺き替えの様子がテレビで放映された。

入館料：大人300円 小人150円

休館日：不定休



## 227 旧遠山家民俗館

(大野郡白川村御母衣125、TEL 05769-5-2062)

旧遠山家の家屋は文政10(1827)年頃に、能登の大家によって建てられた。その後一度改築されたものの、今もなお屋内は黒光りし、外観もどっしりとした威容を誇っている。1階部分は居住、2~4層は養蚕スペースとなっており、床下では火薬の原料となる焰硝づくりが明治20年まで行われていた。なお、この集落は耕地となる平地に恵まれず分家することが容易ではなかったため、大家族形態の家族構成だったといわれており、この合掌家屋から当時を偲ぶことができる。

入館料：大人300円 小人150円

休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



## 228 MIBOROダムサイドパーク

(大野郡白川村大字牧140-1、TEL 05769-5-2012)

御母衣ダム下流に国道を挟んで位置する施設で、「御母衣電力館」「荘川桜記念館」「屋外公園」で構成されている。御母衣電力館では、御母衣ダム・御母衣発電所・荘川桜移植の経緯などを動画や模型・パネルで紹介するほか、子供向けに潜水艦でダム湖を冒険するアトラクション「サブマリンフィッシュ」や高山市荘川町・白川村を紹介するコーナーもある。荘川桜記念館では、写真家前川彰一氏が撮影した荘川桜の写真を展示している。

入館料：無料

休館日：水曜日、冬季休館(12/16~3/14)

